



特別展「111枚のはがきの世界——伝えた思い、伝わる魅力」出品資料より抜粋。撮影：カロワークス

上京者たちの文京

金沢三文豪に寄せて

大木志門 (東海大学教授)

本年は文京区と金沢市の友好都市協定締結5周年にあたるそうである。金沢で「三文豪」と呼ばれる泉鏡花、徳田秋聲、室生犀星はいずれも現在の文京区内に居住したことがある。それも、それぞれ複数回にわたってである。

文京区と三文豪の縁で最初に思い浮かべられるのは芝居「婦系図」の「湯島の境内」で知られ、湯島天神の敷地内に筆塚がある鏡花であろうか。鏡花は一八九〇年秋に上京、湯島天神へ続く女坂下の下宿に仮寓したのを端緒に、本郷四丁目、菊坂下り口、本郷龍岡町、湯島新花町などの下宿を転々とした時代があった。さらに尾崎紅葉入門後の一八九五年より小石川区戸崎町の博文館支配人・大橋乙羽宅に起居し、翌年五月には小石川区大塚町の長屋に金沢から祖母と弟・豊春(のちの斜汀)を呼び寄せて一家を構える。鏡花の文京を舞台にした作品では小石川植物園が登場する「外科室」も知られるが、この小石川時代に書かれたものだ。

鏡花は博文館時代、「日用百科全書」の編纂にたずさわっていた。同社は大橋佐平が本郷区弓町に設立し後に日本橋に移転した明治の大書肆であるが、この叢書には樋口一葉の生前唯一の単行本となった「通俗書簡文」が入っている。一葉はかつて鏡花も住んだ本郷菊坂に暮らしていたが、この頃

は丸山福山町に居住しており、一葉の死までのわずかな期間に両者は交流を持った。また当時の鏡花は郷友で「高野聖」の成立に関わった帝大生の吉田賢龍を通じて彼の寄宿舎にいた姉崎嘲風・高山樗牛・笹川臨風らを知ることになり、本郷と帝大も鏡花には馴染み深い場所であった。文京は鏡花にとって、まだ十代であった最初の上京と二十代前半から半ばまでの新進作家時代を過ごした思い深い土地であったのだ。

鏡花と同様に上京時代をこの地で過ごしたのが室生犀星である。鏡花より二十年後の一九一〇年に上京した犀星は、根津片町、谷中三崎町、駒込千駄木林町の下宿を転々とする。その後は東京と金沢を行ったり来たりして過ごし、同郷の尾山篤二郎を追うように何度目かの上京をした際は本郷弥生町に下宿した。一九一四年に前橋の萩原朔太郎のもとに転がり込んだ後に帰京してからは駒込千駄木町の下宿に入り、さらに石川県ゆかりの白山神社周辺の小石川白山前町の妙清寺の土蔵二階に転居する。このように「谷根千」を中心に住み替えたのである。千駄木の家は森鷗外も住んだ夏目漱石の「猫の家」とも近かった。小説「或る少女の死まで」の舞台の一つは団子坂である。もうひとつ犀星で落とせないのは書店との縁であろう。犀星は一九一六年に感情詩

社をおこして詩誌「感情」を創刊し、同誌を本郷の郁文堂や文武堂および根津や神田の本屋へ持って行き販売を委託した。文武堂書店は同社刊行の『愛の詩集』『抒情小曲集』の販売を担ったことでも知られる。『愛の詩集』には本郷三丁目の「しき石と並木の銀杏」が登場する詩「大学通り」が収められているが、やはり帝大生の友人が多かった犀星にとっても本郷は親しい場所であった。

やがて鏡花は千代田区の六番町に、犀星は大田区の馬込にと、それぞれ終の棲家を見つけたが、本郷の帝大赤門近くの旧森川町に住み続けたのが徳田秋聲である。この家は現在も子孫が住み都史跡となっているが、近代作家でそのままに住居が残っている希有な例である。

秋聲は一八九五年に長岡の新聞社勤めを經由して二度目の上京をし、博文館に住み込み勤務をした。やがて一九〇一年に本郷向ヶ丘弥生町で高岡出身の三島霜川と同居し、以後は小石川表町、本郷菊坂上、西片町と森川町に架かる清水橋(別名、空橋)の袂、小石川富坂の家を移ってゆく。ちなみに小石川表町の下宿の大家で帝大生の田中千里は、金沢の病院長の子で鏡花の竹馬の友でもあった。

そして一九〇六年にはま夫人が見つけてきた森川町一番地の家へ入る。結果的に秋聲は旧加賀藩邸で付近に前田家臣の土地も多くあった帝大周辺に住み続けたことになるが、胃や気管支が弱かったので病院が多いのも便利であったようだ。このように、そもそも本郷が金沢と縁の深い地だが、それぞれ故郷に複雑な思いを抱く金沢の文人たちも、郷里の縁に拠りながら東京に根付いていったのである。この森川町の家には秋聲を慕って若者男女が集まり、その会合には犀星も度々顔を出していた。

展示報告

コレクション展「鷗外の『意地』のはなし」——歴史小説『阿部一族』を中心に——

2024年7月5日(金)〜10月6日(日)



展示室中央に単行本『意地』を展示

本展は鷗外が51歳で発行した初めての歴史小説集『意地』(初山書店、大正2年)に着目した展示会です。展示は鷗外と陸軍大将・乃木希典の交流に始まり、大正元年の乃木の死をきっかけに鷗外が筆を執り、同年から翌2年にかけて『興津弥五右衛門の遺書』『阿部一族』『佐橋甚五郎』を発表、三作品を収録した『意地』発行に至るまでを、鷗外の日記や書簡などを紐解きながら辿りました。時系列で並ぶ資料と年譜パネルを一緒に展覧し、乃木の死から『意地』発行までのスピード感を可視化することができました。いずれの作品も総合雑誌『中央公論』に発表され、『意地』は1000部発行で再版もなかったことから、当時の読者はエリート層や文学愛好家を中心であったと推察できます。しかし、三作品とも現在まで長く読み継がれてきました。例えば大正期、昭和期に教科書への掲載が確認できる他、『意地』発行から25年後の昭和13年、岩波書店から三作品を収録した文庫『阿部一族 他二篇』(解説・斎藤茂吉)が発行され、やがて外国語訳も登場します。特に『阿部一族』は鷗外の生前から舞台化されていました。昭和初期に映画化と舞台化、平成期にはテレビドラマ化、漫画化などの創作が誕生し、新たな読者層を獲得していきました。こうした鷗外没後の作品の広がりもあわせて展覧しました。

本展も新たな読者が生まれることを願って企画したものです。作品を読んだことがなくても、作品世界に触れられるような展示を心掛けました。展示室に入ると右側の壁には、三作品の本文から登場人物の『意地』が描かれる場面、物語が動き出す場面などの引用を掲示しました。向かいの壁には、あらすじをパネル展示し、隣のモニターには大正期から現代までの文学者が語る作品の魅力やスライド上映しました。本展をご覧になり、『鷗外の『意地』のはなし』を読んでみようと思っただけなら、嬉しく思います。

最後になりましたが、本展を開催するにあたり、ご協力を賜りました関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

〇ミニ展示ガイドを
発行しました。

展示キャプションや
関連年譜、『意地』収録
録作品あらすじ等を
収録。

(B5判、12頁
税込300円)

〇展示会会期中、左記のとおり関連事業を開催しました。

朗読会「阿部一族」を読む」

朗読：内木明子氏(朗読家、早稲田大学相模女子学非常勤講師)
日時：8月31日(土) 14時〜15時30分

学生ギャラリートーク

日時：9月1日(日) 11時〜13時

講演会「鷗外にとって歴史史料とは」

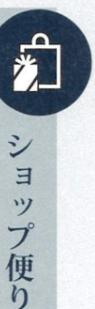
講師：藤田覚氏(東京大学名誉教授)
日時：9月16日(月・祝) 14時〜15時30分

秋聲作品は「茶の間小説」とも言われ、長篇「徴」をはじめ「風呂桶」など短篇の多くもこの家が舞台となっている。妻の前半生を描く「足跡」には本郷や湯島などが登場し、最後の長篇「縮図」は晩年を連れ添った小石川白山の芸者・小林政子がモデルである。よって舞台の一つは秋聲第二の家のようになっていた白山の置屋で、ここには晩年の鏡花夫妻も訪れたという。旧友の秋聲と鏡花は師・紅葉の臨終場面が登場する「徴」をきっかけに決裂していたが、一九三三年に鏡花の弟・斜汀が秋聲所有のアパート「フジハウス」(現存)で死去したことが契機で一応の「和解」を果たしていた。

ちなみに若き秋聲が博文館への紹介状をもらった長岡出身の代議士・小金井権三郎は鷗外の妹の喜美子が嫁いだ小金井良精(解剖学者で星新一の祖父)の長兄であり、その良精の子の良一に嫁いだのが桑木厳翼(哲学者の娘・素子で、佐佐木信綱門下の歌人であった小金井素子は秋聲を囲む「あらくれ会」の主要会員で森川町の家をしばしば訪れていた。ちよつと不思議な小金井家を挟んだ鷗外と秋聲との因縁である。

大木志門
おおき・しもん

1974年、東京生。金沢市の徳田秋聲記念館開館に学芸員として関わり、日本近代文学館、山梨大学を経て現職。著書に『徳田秋聲と「文学」』(2021年、鼎書房)、『徳田秋聲の昭和』(2016年、立教大学出版会)、編著に『月日のおとなひ 徳田秋聲俳句集』(2023年、龜鳴屋)、『島崎藤村短篇集』(2022年、岩波文庫)、『秋聲の家 徳田一穂作品集』(2020年、秋聲記念館文庫)など。文京区立森鷗外記念館運営協議会委員



ショップ便り

『文京区立森鷗外記念館所蔵 森鷗外宛書簡集 第5号(さ)た編』 刊行!

当館では、知友から鷗外に寄せられた書簡の翻刻を紹介する『文京区立森鷗外記念館所蔵 森鷗外宛書簡集』を継続刊行しています。約3年ぶりの新刊となる第5号は、差出人の姓名が「さ」「し」「す」「せ」「そ」「た」で始まる39名88通を収録。いずれも翻刻と注記、図版、発信者の略歴を掲載しています。

当館ミュージアムショップで販売のほか、通信販売にも対応しておりますのでお気軽にお問い合わせください。

〇発信人名(五十音順)

- 西澤行蔵、斎藤勝壽、斎藤茂吉、斎藤緑雨、阪井重季、佐佐木信綱、佐佐木雪子、佐藤元長、佐藤紅緑、佐藤三吉、佐藤恒丸、志賀潔、品川弥二郎、渡江保、渋谷在明、島田重禮、清水格亮、下瀬謙太郎、下村観山、白井雨山、新海竹太郎、末松借一郎、菅了法、須藤憲三、岡澄桂子、岡直彦、高橋順次郎、高田早苗、高野聖一郎、高橋順太郎、高浜虚子、高村光太郎、多紀崇徳、武田仰天子、田代義徳、谷口謙、谷崎潤一郎、玉水俊誠、田村俊子

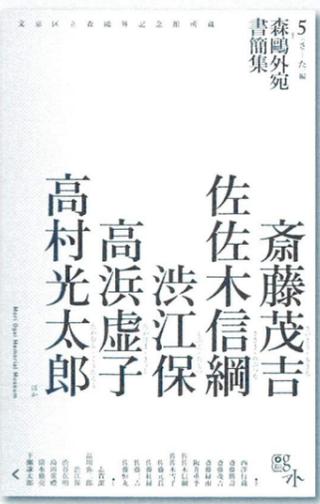
〇解説(執筆者五十音順)

- 池澤一郎(早稲田大学教授「渡江保の投擲学」)
- 田部知季(富山大学准教授「斎藤茂吉と高浜虚子の葉書から」)
- 藤木直実(日本女子大学非常勤講師「明治の才媛とその結婚 佐佐木(藤島)雪子の文業と献身」)
- 宗像和重(早稲田大学名誉教授「鷗外と信綱をめぐる書簡補遺―明治文学の片影を補助線として―」)

通信販売のご利用方法

購入を希望される場合は、氏名、住所、電話番号、ご希望の商品名、送付方法を明記の上、当館宛にEメール、または電話でご注文ください。確認後、お支払い方法等をご連絡いたします。

※送料はお客様のご負担になります。日本郵便のレターパック(対面でのお届け)もしくはレターパックライト(郵便受けに投函)で発送いたします。どちらかをお選びください(商品によっては宅配便を利用する場合があります)。



定価・税込4180円
A5要約判、ソフトカバー、168頁
2024年8月刊行
監修：宗像和重(早稲田大学名誉教授)

メール bnk-info@morioagai-kinenkan.jp

電話 03-3824-5511

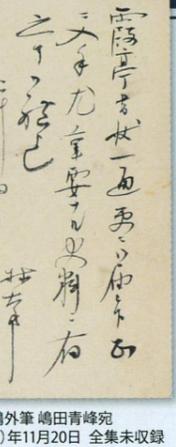
歴史小説執筆の発端から、現在まで作品が読み継がれてきたことを示す資料を時系列に列陳

展示のお知らせ

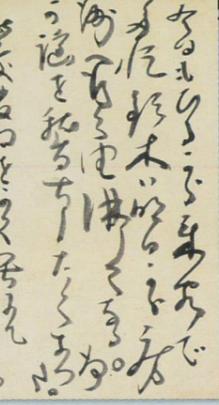
特別展

「111枚のはがきの世界」

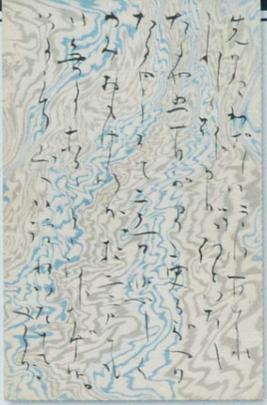
— 伝えた思い、伝わる魅力 —



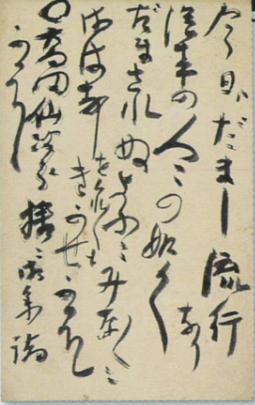
森鷗外筆 嶋田青峰宛
大正5(1916)年11月20日 全集未収録



夏目漱石筆 松根東洋城宛
明治40(1907)年7月22日



与謝野晶子筆 有賀精宛
昭和10(1935)年5月17日



田中正造筆 宮内勇次宛
大正元(1912)年12月22日

文京区立森鷗外記念館では令和5(2023)年、江戸千家元・川上宗雪氏より、明治20年代から昭和50年代に森鷗外を含む文学者や美術家、ジャーナリストなどが交わしたはがきコレクション111枚を一括でご寄贈いただきました。

111枚のはがきの差出人には、その名を聞けば知っている著名人が名を連ねます。また内容は、季節の挨拶、礼状、お祝い、事務連絡など、暮らしや仕事のやり取りもあれば、私信ならではの本音や心安さが見られるものもあります。

いつ、誰が誰に対して、どんな内容を送ったのが、一枚の中に完結するはがき。手書きでしたためられ、郵便によって人の手を介して運ばれたはがき一枚一枚には、書き手の個性や受取人との関係性、当時の社会の雰囲気を感じさせる魅力が詰まっています。

本展では、そうした魅力とともにはがきが伝える人物交流や文化的、社会的背景を紹介いたします。明治から昭和に至る移り変わりもあわせて、111枚のはがきの世界をお楽しみください。

主な差出人(五十音順)

- 【文学者】芥川龍之介、石川啄木、伊藤左千夫、井伏鱒二、円地文子、北原白秋、齋藤茂吉、杉田久女、高村光太郎、立原道造、谷崎潤一郎、永井荷風、夏目漱石、萩原朔太郎、二葉亭四迷、堀辰雄、正岡子規、宮沢賢治、武者小路実篤、室生犀星、森鷗外、与謝野晶子、吉川英治、若山牧水、ほか
- 【美術家】會津八一、小川芋銭、織田一麿、恩地孝四郎、香月泰男、川端龍子、小出楳重、近藤浩一、坂本繁二郎、芥沢健介、竹内栖鳳、竹久夢二、堂本印象、富岡鉄斎、橋本関雪、平福百穂、藤田嗣治、前田青邨、松本竣介、ほか
- 【ジャーナリストなど】大川周明、緒方竹虎、木下尚江、幸徳秋水、高田早苗、田中正造、山川菊栄、山川均、ほか
- 【その他】阿部次郎、安倍能成、飯名垣魯文、三遊亭円朝、新村出、西田幾多郎、野上豊一郎、藤原銀次郎、南方熊楠、柳宗悦、和辻哲郎、ほか

展示会場から

与謝野晶子『新訳源氏物語』上、中巻

金尾文淵堂 明治45年2月、6月刊 [C16-12]

「与謝野晶子訳源氏物語」の序を書き文淵堂に遺る 明治45年1月17日
「与謝野晶子のために訳本源氏物語の校正に着手す」明治45年5月2日
明治45年の『鵬外日記』には、歌人・与謝野晶子の『新訳源氏物語』について二度記されています。

『新訳源氏物語』は、古典の中で『源氏物語』を最も愛読したという晶子が「原著の精神を我物」(『新訳源氏物語』下巻の二)として行った現代語訳でした。明治45年2月11日に上巻が出版され、洋画家・中澤弘光が装丁、各帖の挿絵を描きました。上巻の巻頭には、鵬外として評論家、詩人・上田敏の序が収録されました。鵬外は序文で「そのわたくしでも此本には満足せずにはおられません。なぜと申しますに、源氏物語を翻訳するに適した人を、わたくし共の同世の人の間に求めますれば、与謝野晶子さんに増す人はあるまいと思ひますからでございます」と評価しています。

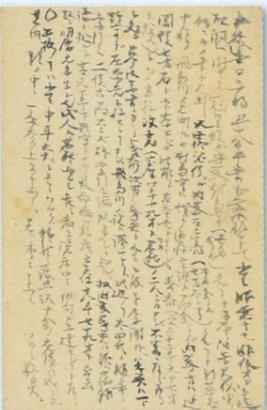
上巻の出版の当日、与謝野寛晶子夫妻の結社・東京新詩社の同人・平野万里久保が鵬外を訪ね、晶子に洋行の計画があることを伝えます。明治44年11月に渡欧した寛を追つてのことでした。鵬外は、百貨店・三越呉服店の専務取締役・日比翁助に晶子を紹介し、洋行費の補助として千円が贈与されることになりました。

一方で、晶子は『新訳源氏物語』の執筆を続け、中巻として出版する原稿を出発前に脱稿しました。鵬外はその校正を引き受け、5月2日に着手しています。「玉鬘」から「夕霧」まで18帖、頁数にして460頁もの校正は、金尾文淵堂の主人・金尾種次郎が鵬外を何度か訪ね、催促した末に終わりました。中巻は明治45年6月25日に発行されます。そして、晶子の帰国後の大正2年8月に下巻の一、11月に下巻の二を発行し、『新訳源氏物語』は完結しました。

この資料は常設展示部分で紹介しています。

『新訳源氏物語』上、中巻 箱

主な参考文献・逸見久美『新版評伝与謝野寛晶子 大正篇』八木書店 平成21年、神野藤昭夫『よみがえる与謝野晶子の源氏物語』花鳥社 令和4年



南方熊楠筆 雜賀貞次郎宛
昭和16(1941)年4月8日



川端龍子筆 鷲田新太郎宛
昭和年不詳6月6日



織田一磨筆 種市良實宛
大正8(1919)年1月1日

会期●2024年 10月12日(土) - 2025年 1月13日(月、祝)

【会期中の休館日】
10月22日(火)、11月26日(火)、12月23日(月)・24日(火)、12月29日(日)・1月3日(金)
会場●文京区立森鷗外記念館 展示室1、2
開館時間●10時~18時(最終入館は17時30分)
観覧料●一般600円(20名以上の団体・480円)
※中学生以下無料、障害者手帳ご提示の方と介護者1名まで無料
※文京ふるさと歴史館入館券、パンフレット押印入、友の会会員証ご提示で2割引
※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。
監修●須田喜代次氏(大妻女子大学名誉教授、森鷗外記念会会長)
研究協力●茶の湯江戸千家 伊藤一郎氏(東海大学名誉教授、杉浦静氏(大妻女子大学名誉教授、出口智之氏(東京大学准教授、松村茂樹氏(大妻女子大学教授) [五十音順]

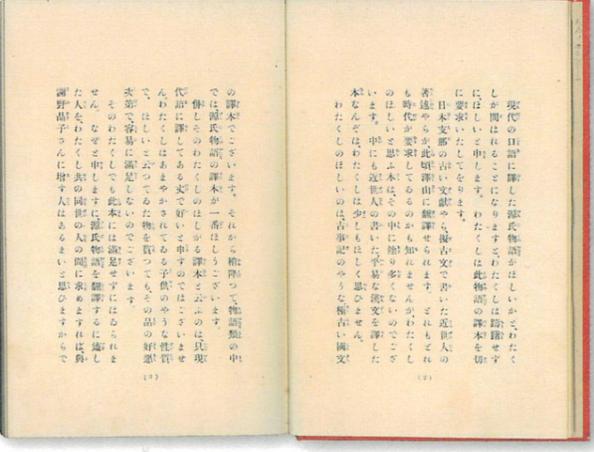
関連事業のお知らせ
展覧会期間中に関連講演会を予定しております。会場はいずれも当館2階講座室定員50名です。申込方法は7頁をご覧ください。

講演会1
「111枚のはがきのタペストリー」
講師 須田喜代次氏
(大妻女子大学名誉教授、森鷗外記念会会長)
日時 11月10日(日) 14時~15時30分
参加費 無料(参加票と本展の観覧券)
申込締切 10月28日(月) 必着

講演会2
「はがきの世界1」
日時 11月24日(日) 14時~16時15分
※前半と後半の間に休憩があります。
参加費 無料(参加票と本展の観覧券)
申込締切 11月11日(月) 必着

講演会3
「はがきの世界2」
日時 12月14日(土) 14時~16時15分
※前半と後半の間に休憩があります。
参加費 無料(参加票と本展の観覧券)
申込締切 11月25日(月) 必着

講演会4
「はがきの世界3」
日時 12月14日(土) 14時~16時15分
※前半と後半の間に休憩があります。
参加費 無料(参加票と本展の観覧券)
申込締切 11月25日(月) 必着



上巻 鵬外の序部分



上巻 表紙

ギャラリートーク
展示室にて当館学芸員が展示解説を行います。申込不要、当日の展示観覧券が必要です。
日時 10月30日、11月20日、2025年1月8日
いずれも水曜日14時~(30分程度)
※右記に加え、会期中展示解説をYouTubeチャンネルにて配信予定。
記念日イベント
日時 11月1日(金) 10時~18時 (最終入館17時30分)

活動報告

文学散歩

「これより図書館へゆかばや」開催



6月15日に文学散歩を実施しました。鷗外をはじめ、夏目漱石、樋口一葉らのゆかりの地を巡る約3キロメートルのコースを、森鷗外記念会常任理事の倉本幸弘氏にご案内いただきました。散策は東京大学赤門すぐ近く、樋口一葉にゆかりある法真寺から、倉本氏による一葉の「明治二十四年八月八日」日記の朗読と解説でスタート。「これより図書館へゆかばや」という日記の一文から、一葉が歩いた当時の道のりや暮らしぶりに思いを馳せました。その後、東京大学医学部の「鉄門」や「雁」の舞台である無縁坂、不忍池、漱石が寺田寅彦と共に音楽を聴きに訪れたという奏楽堂などを、文学者や作品に関するエピソードをうかがいながら巡りました。ゴールは一葉が通った東京図書館のあった上野の丘。煉瓦造りの

建物は現在も東京藝術大学敷地内に残り、一葉が見た夏の景色を少しだけ感じられました。参加者からは「明治にタイムスリップしたような1日でした」などの感想をいただいた、初夏の散策となりました。

鷗外忌記念講演会開催

22歳の鷗外がドイツ留学へ向かったのは明治17(1884)年の夏でした。今年度の鷗外忌記念講演会は、7月13日に岐阜大学の林正子名誉教授に「140年前のドイツ留学と森鷗外——自己探究と文学憧憬」と題してお話しいただきました。若き日の鷗外の眼に異国であるドイツはどのように映ったのか、またそれらが鷗外の人生にその後をもたらしたのか。時系列で追った林氏の詳細なレジュメを基に、「森鷗外のドイツでの留學生活」「19世紀中葉のドイツ社会と文化」「鷗外のドイツ体験による精神の関連」を軸に、二国を比較しながらお話いただきました。また、ドイツ三部作の背景についても紐解いてくださいました。改めて鷗外を想う、鷗外忌記念講演会となりました。



岩波書店フェアを行いました

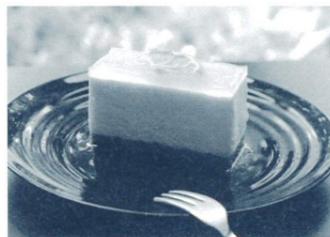


コレクション展「鷗外の『意地』のはなし」——歴史小説『阿部一族』を中心に——で取り上げた鷗外の歴史小説集『意地』には、『興津弥五右衛門の遺書』『阿部一族』『佐橋甚五郎』の三作品が収録されています。岩波書店から昭和13年に出版され、現在まで刊行されている文庫『阿部一族』他二篇には『意地』と同じ三作品が収録されました。これを受け、岩波書店協力のもと、同社から出版されている歴史小説を中心とした書籍を集め、展示期間中にフェアを行いました。鷗外作品は『阿部一族』他二篇をはじめ、『渡江抽斎』『大塩平八郎』がシヨップに並びました。他にも、歴史上の人物に焦点をあてた作品や、歴史や伝承を取上げた作品など、海外作品も含め幅広いラインナップが揃い、様々な歴史小説に触れる機会となりました。



カフェ便り

コレクション展「鷗外の『意地』のはなし」開催期間中、モリキネカフェでは「肥後国



この夏は右記に加え、鷗外ゆかりの場所でもある福岡県北九州の門司港のクラフトビール「門司港ビール」を期間限定で販売しました。また8月3日には、定番メニューの赤、白のドイツワインに、スパークリングとロゼを加えた「ドイツワイン飲み比べセット」を限定販売し、たくさんの方に楽しんでいただきました。



これからの催しもの

催しは◎以外は全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。詳細は、チラシやHPをご覧ください。当館までお問い合わせください。

★応募多数の場合抽選とさせていただきます。★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

11月3日(日・祝) 14:00～15:30

開館記念講演会「森鷗外と源氏物語」

講師：島内景二氏(国文学者、電気通信大学名誉教授) 会場：講座室
定員：50名 料金：1000円 申込締切：10月21日(月)必着

11月10日(日) 14:00～15:30

展示関連講演会「111枚のはがきが織りなすタペストリー」

講師：須田喜代次氏(大妻女子大学名誉教授、森鷗外記念会会長)
会場：講座室 定員：50名 料金：無料※要本展観覧券(半券可)
申込締切：10月28日(月)必着

11月24日(日) 14:00～16:15(休憩あり)

展示関連講演会「はがきの世界 1」

会場：講座室 定員：50名 料金：無料※要本展観覧券(半券可)
申込締切：11月11日(月)必着

【前半】「芥川龍之介のはがきをめぐる三題噺——(六朝書体)・海軍機関学校・小説「河童」(60分)
講師：伊藤一郎氏(東海大学名誉教授)

【後半】「夏目漱石のはがきから——漱石の文人趣味」(60分)
講師：松村茂樹氏(大妻女子大学教授)

12月14日(土) 14:00～16:15(休憩あり)

展示関連講演会「はがきの世界 2」

会場：講座室 定員：50名 料金：無料※要本展観覧券(半券可)
申込締切：11月25日(月)必着

【前半】「宮沢賢治『臨終の詩』の謎——松本竣介はどこでこの詩に出会ったのか?」(60分)
講師：杉浦静氏(大妻女子大学名誉教授)

【後半】「翻字作業の裏側で——文字に向きあうということ——」(60分)
講師：出口智之氏(東京大学准教授)

◆◆上記イベントの申込方法◆◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

- ①往復はがき 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。
- ②Eメール 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jpまでご応募ください。 ※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

【ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。】

地域情報

文化の秋は、谷根千エリアをめぐる様々なイベントが目白押しです。

10月12、13日には「第26回根津・千駄木下町まつり」が開催されます。根津神社境内をメイン会場に、物産展や様々な飲食が楽しめる屋台、昔遊びや楽器演奏などバラエティに富んだ体験ができる緑日です。根津駅から千駄木駅、そして当館までの広範囲にサブ会場が設置され、各会場をめぐって豪華プレゼントが抽選で当たるスタンプラリーも実施されます。地域の町会や商店街が主導する毎年秋恒例のお祭り、根津・千駄木の魅力にどっぴりと浸ることができます。下町まつりパンフレットまたはマップを当館でご提示頂くと、観覧料とカフェのドリンクを2割引きでお楽しみいただけます。

10月1日から31日までは、谷根千と池之端、上野桜木、日暮里エリアで「第32回芸工展2024」が開催、当館も参加します。「まちの魅力の再発見と表現を通じた交流」をテーマに、地域で活動するアーティストや職人、店主らが一斉に表現の場を設けることで、まち全体が一つの展覧会場かのような体験ができます。ゆるやかな繋がりがだからこそ、ゆったりとした気持ちで地域をめぐってみてください。

2024年度後期 文京区立森鷗外記念館 開館カレンダー

10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

コレクション展「鷗外の『意地』のはなし——歴史小説『阿部一族』を中心に」
7月5日(金)～10月6日(日)

コレクション展「小金井家の人々と鷗外(仮称)」
1月18日(土)～3月30日(日)予定 ※会期延長の可能性有

特別展「111枚のはがきの世界——伝えた思い、伝わる魅力」
10月12日(土)～2025年1月13日(月・祝)

● 休館日

開館情報は予告なく変更になる場合があります。
詳しくは当館までお問い合わせください。

編集後記

今夏は連日「熱中症警戒アラート」が発せられる酷暑となりました。当館は環境省「指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)」と、文京区内の「ぶんぎょう涼み処」に指定されています。残暑の厳しい日には、引き続き当館で涼んでください。

昨年に引き続き、7月23日から26日まで国立科学博物館で開催された「教員のための博物館の日2024」にブース出展しました。会場では昨年当館に足を運んでくださった教員の方がお声がけくださり、2年間の積み重ねが感じられる機会となりました。

また、8月18日に「森鷗外記念館へいこう 上千駄木町会なつあそび」(上千駄木町会主催・当館協力)を開催しました。



昔の遊びを楽しむをコンセプトに、2階講座室でオリジナル紙芝居「もりおうがいの物語」とうちわ工作をした後、館前で打ち水をいたしました。たくさん親子連れの方々にお越しいただき、賑やかな一日となりました。

厳しい夏も、当館で過ぎた時間が思い出になってくれたなら嬉しく思います。

交通案内

●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
- ・JR線・京成線「日暮里」駅 西口 徒歩15分

●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
 - ・都バス 上58番系統「回子坂下」下車 徒歩5分
 - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「19特養ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511

URL: <https://morigai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00 (最終入館は17:30)

休館日 毎月第4月・火曜日(祝日の場合は開館、例外あり)、
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、燻蒸期間等



文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum